COLUMN

老後への備え

久保知行
年金数理人・経営情報学博士

PROFILE
久保知行（くぼ・ともゆき）
年金数理人・経営情報学博士。1974年京都大学理学部卒業。住友信託銀行株式会社を経て、日産自動車株式会社人事部エキスパートリーダー（グローバル年金担当）を務めた。
ハーバード大学国際問題研究所客員研究員。大学教員歴としては、早稲田大学大学院経営管理研究科客員教授をはじめ、慶應義塾大学大学院理工学研究科、横浜国立大学大学院ビジネススクール、日本大学経済学部、日本国際学園大学経営情報学部などの非常勤講師を歴任。

高齢化社会が進展し、老後に関心を持つ人が多くなりました。その階層は、まだ若い人たち、中高年層、公的年金受給開始目前の人たち、公的年金受給中の人たちと、非常に多様です。老後に限らず、人が暮らしていく上では、肉体的充足と精神的安定とが必要です。老後について考え、備えるためには、その両面に目を向ける必要があるでしょう。

その点を、私の専門である「年金」の観点から見ると、経済的側面が非常に大事になってきます。「年金だけで、老後の暮らしができるのか」ということが大きな関心事になっているわけです。現代日本においては、老後の経済的支えの中核は、公的年金になります。2023年度の公的年金の支給額は約55兆円で、約3,500万人の受給者に支給されています。公的年金がなければ、老後の経済生活を支えるのは不可能と言えるでしょう。

ところが、老後に不安を抱く人は多いのに、将来支給される公的年金の金額や条件をきちんと理解していない人が少なくありません。実際に年金額通知書が来てから愕然とするというのでは、あまりにも不用心です。日本年金機構から送られてくる「ねんきん定期便」には、個々人の現在と将来の公的年金についての情報が記載されています。老後に備えるためには、まず、「ねんきん定期便」の内容をきちんと理解する必要があります。

公的年金額を把握した上で、将来の生活設計には不足すると感じられる場合には、他の収入源も考える必要があります。退職金の見込み額なども勘案した上で、さらに金額的上乗せを図る場合には、個人型確定拠出年金（iDeCo）による積立を考えるのがよいでしょう。iDeCoの掛金は非課税となりますが、これは政府が税金を払い戻して補助金としてくれているわけです。2026年12月から、掛金拠出が70歳まで可能となり、拠出限度額も月額62,000円まで大幅に引き上げられます。

一方で、資金を増やしたい一心で退職金を投資につぎ込み、思わぬリスクにさらされる人もいます。詐欺に遭う人も少なくありません。大事な老後資金なのですから、「よく分からないものには手を出さない」ことを徹底すべきです。安全を第一とするのなら、円貨預金のままでも、何ら問題はありません。それが一番堅実なスタートラインです。

年金が足りないと心配になる人には、まず仕事に就けるかどうかを真剣に検討されることをお勧めします。その上で、少ない年金額を有効に活用するための発想として、使うお金を区分することをアドバイスします。「必要」か「（当面）不要」かは、誰でも区分すると思いますが、これに「幸福」を加えると生活に潤いが出ます。

例えば、毎朝飲むお茶の葉を少し高級なものとします。これを「不要」に分類するのではなく、「幸福」にすれば、味気のない「節約」生活を避けられるかもしれません。精神的安定も重要なのです。